

令和6年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞受賞

居住支援から広がった子どもへの貧困対策と 地域活性化への取り組み

佐賀県佐賀市 特定非営利活動法人空家・空地活用サポートSAGA

NPO法人の開設と活動

特定非営利活動法人空家・空地活用サポートSAGA(愛称:空空(そらそら))以下、空空というは、「空家の利活用」を軸に支援活動を行い、今年で活動9年目になります。

空空は、設立当初から行政や地域と連携し、空家所有者の支援とともに、住宅確保要配慮者(高齢者、障がい者、外国籍の者、ひとり親家庭など)に空家(アパート含む)を提供する居住支援を行ってきました。

令和元年からのコロナ禍により、行政からの居住支援の相談が急増しました。特に、派遣切りなどで収入が減少して生活が苦しくなったシングルマザーや、DV被害で保護された母子など、ひとり親家庭への支援相談が



まちなかオフィスTOJIN館外観

多く寄せられました。

空空では、要配慮者へ住居を提供するだけでなく、入居後も見守りを兼ねてスタッフが

自宅まで食料などを届ける支援を続けています。

その中で、ひとり親家庭の幼い小学生がお腹を空かせ一人で寂しく留守番している状況を目の当たりにし、子どもたちを空腹と孤独から救うために地域一体となった継続的な食糧支援や子どもの居場所づくりが必要であると強く感じました。行政や商店街、他団体とも話し合い、「支援の拠点」をつくることにしました。

支援拠点

「まちなかオフィスTOJIN館」の設置

地域住民の協力を得て唐人町商店街の中心部にある老舗豆腐店の空き店舗付き住宅(3





夏祭りごみ拾いボランティア



居場所そらの様子



階建て)をコミュニティスペースのあるシェアオフィスに改装し、その収益の一部を子どもの貧困対策などの支援に充てることにしました。改装後2020年2月、空室の事務所もここに移転し、「まちなかオフィスTOJIN館」と名付け、新たな支援の拠点が誕生しました。そして、子どもの支援に関係する2つの市民活動団体も入居しました。

子ども第三の居場所「居場所そら」の開所

2022年に、1階は、地域の誰もが集えるコミュニティスペース「エルテラス」、2階の一部と3階のサンルームを再度改装し、2022年4月、TOJIN館の2階(和室とキッチン)と3階(プレイルーム)に、子ども第三の居場所として誰もが自由に立ち寄れる「居場所そら」を開所しました。

「居場所そら」は、週3回(月、水、金)開所し、ママスタッフが、おにぎりやお菓子を用意して子どもたちを待っています。子どもたちは、お腹いっぱいになって満面の笑顔でお喋りやゲームをして過ごしています。長期休暇時には、お昼ご飯と一緒に食べます。また、そうめん流しやクリスマス会などのイベントで子どもたちは存分に楽しんでいます。段々利用者も増え、開所してから昨年度末までに、延べ1500人以上の子どもたちが利用しています。

子育て支援館

「佐賀コミュニティフリッジ」の開所

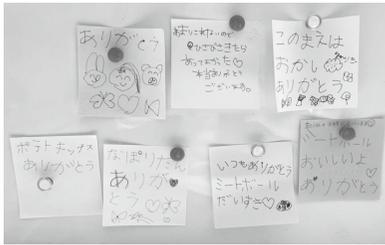
九州初の無人のフードパントリーである子育て支援館「佐賀コミュニティフリッジ」(愛称・コミフリ、以下コミフリという)は、居場所そら開所から1か月後にOPENしました。

コミフリとは、農家や企業などの皆様からいただいた支援物資を陳列し、必要とする人に提供する場所であり、佐賀市内の空ビルの一面を改修して開所しました。

コミフリは24時間365日、米や野菜、お



コミフリ支援者様



コミフリ子どもたちのメッセージ

利用者からのメッセージボードには、子ども
の字で「お米ありがとう」「ポッキーありが
とう」など貼られています。母親からは「お野
菜ありがとう。子ど
もたちとおいし
くいただきます」
「とても助かって
います」などのお
礼の言葉のほか、
「心に余裕がで
きました」「ボード
のコメントを見

て、私だけじゃないんだと安心しました」「私
自身も心がゆわうつでしたが、みなさんの心
の温かさにふれ、前向きにがんばりたいと思
います」など多くの感謝のメッセージが寄せ
られ、コミフリが利用者にとって物質的な支
援だけでなく、精神的な支援にもなっている
ことが伝わってきます。

TOJIN館を中心とした地域活性化

TOJIN館という拠点ができると、そこ
には子どもたちの支援に思い入れのある方々
が多く集まるようになり、そのうちに「子ども
たちのために皆で何かやろう」という声があ
がりました。

そうして実現したのが、子どもたち主役の
イベント「どんぐりキッズ市場」や、フリー
マーケット「そらいち」です。これらのイベン
トの実行委員会の拠点はTOJIN館であ
り、子ども支援の輪がTOJIN館を中心
に年々広がっているのを感じています。

例えば、コミフリのメッセージボードに「高
校に進学した子どもにも辞書が買えませんと
の書き込みがあったので、佐賀女子短期大学
へ相談したところ、学生たちが多くの辞書を
寄付してくれました。逆に、同短大から「留
学生がスポーツ大会で履くシューズがない」
との相談があった時には、TOJIN館に

菓子などの食料品や衣料やトイレットペー
パー、生理用品などの日用品を無料で受け取
ることができる場所です。支援対象は、児童
扶養手当を受給しているひとり親(シングル
マザー)家庭で、現在の登録者は200世帯
です。時間や人目を気にせず利用できるよう
携帯の鍵アプリ(登録時に付与)で入退室でき
る無人管理システムを採用しています。

通常、地域の支援農家や企業の皆様にお願
いして米や野菜、食料品、日用品など寄付し
ていただきコミフリに並べますが、助成金や
支援金をいただいた時には、障がい者就労支
援施設から商品(果実ジャム等)を購入すると
いうダブル支援のシステムを構築し運用して
います。



コミフリ棚入れ

は、個人や企業からあつという間に20名分の
シューズが集まりました。

夏祭りや秋のバルーンフェスタの時には、
イベントスタッフがTOJIN館に集い、ご
み拾いボランティアの拠点となっています。
このように、今やTOJIN館は地域活性化
の拠点の一つとなっており、唐人町商店街を
中心に地域は次第に活気づいています。

こうして、居住支援から始まった空家の活
動は、子どもの貧困対策や地域の活性化へと
繋がりが、きつとこれからも広がりをみせるこ
とと思います。

(特定非営利活動法人空家・空地活用サポート
SAGA 副代表理事 内川実佐子)